

令和元年6月26日付【日本下水道新聞】
主要行動10題 魅力あるコンサルへ
＜新中期計画を公表＞

第二期中期行動計画 10の主要行動

1. 水システムを通して地域・都市を豊かに
2. 業務領域を拡大し変化する事業体の課題に適時的確に対応
3. 災害等緊急時に前面で素早く対応
4. 官民連携への適切な支援
5. デジタル化への先導的対応
6. 水コンサルタントの社会的地位・知名度確立と経営基盤の確立、SDGs達成に向けての貢献
7. 働き方改革等による魅力ある職場の創出
8. 多様な業界関係者との連携の強化
9. 上下水道分野で技術面・技術開発面でもリーダーシップを発揮
10. 国際展開への貢献



村上会長

総会冒頭であいさつした村上雅亮会長（NJS社長）は、厳しい事業環境に置かれている上下水道について、「地域の水と環境を守るといふ観点で、民間企業も一体となつて取り組む必要がある」とそれぞれの地域社会に寄り添う必要性を強調。中期計画策定の背景として「とりわけコンサルは上下水道の担い手としての意識を高め、期待される専門家としての役割を果たしていくため、自身も変わり、成長していく必要がある」との認

識を示し、実現策となる10の主要行動（別掲）を紹介した。
新計画の概要説明に立った谷戸善彦企画委員長（NJS）は、第一期計画策定後の「かつてない大きな状況の変化」について▽自然環境▽社会環境▽国の政策▽水コン協自身——の4点の側面での整理・対応を図ったことや、水道法改正など最近の動き、協会の各委員会や支部、外部の意見なども踏まえた計画であることなどを力説した。

水コン協

主要行動10題 魅力あるコンサルへ

新中期計画を公表

全国上下水道コンサルタント協会は13日、第38回定時社員総会の席上で、今後3年間の協会と会員の行動の礎となる「第一期中期行動計画」を公表した。第一期計画を策定した3年前からの急激な環境変化を整理し、特に力を入れる10の主要行動を明示。「新しい時代に魅力ある水コンサルタントをつくる」というキャッチフレーズの下、地域や人材の重要性を前面に押し出した。